

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:32人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(H28.5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

八幡湿原での本校の取り組み

【報告者】広島新庄中学・高等学校 教頭 平野 正

広島県新庄学園が八幡湿原自然再生協議会の仲間入りをしました！ HP <http://www.shinjou.jp/>

本校は、北広島町に位置し、国天然記念物のテングシデやオオサンショウウオ、八幡湿原などを教材に中学校全体で、生物多様性の保全を柱とした3カ年プログラムを行っています。

この取り組みは、JST中高生の科学研究実践活動推進プログラムにも採用していただいています。今回は、八幡湿原に関わる本校の取り組みを紹介させていただきます。



白川勝信先生の特別講義

【7月5日】

中学3年生全員(64名)が、白川勝信先生(芸北高原の自然館)からお話を伺い、生物多様性と八幡湿原の再生事業について学びました。

【7月15日】

中学3年生全員が、芸北高原の自然館、八幡湿原でフィールドワークを行い、動植物の観察や再生事業について学びました。

生徒からは「いろいろな植物があり、鳥や虫、人間がいて自然がなりたっていると感じた」などの感想が聞かれました。



八幡湿原でのフィールドワーク

【11月23日】

中学3年生2名が八幡湿原自然再生協議会、霧ヶ谷湿原再整備検討会に参加させていただきました。霧ヶ谷湿原の一部エリアは、水の流入ができず乾燥地になっていました。

そこで水をパイプで流入させ、このエリアを湿原化することが今回のテーマでした。生徒からは、「大人の人たちが課題解決を解決するために本気で意見を言い合う姿がすごかった。」との声が聞かれました。来年度から新庄学園でカスミサンショウウオのモニタリングをすることになりました。



カスミサンショウウオの産卵地

その後、生徒2名は「湿原再生に関わる提案」というテーマで最適な水の引き方を実験する研究を行いました。研究成果は3月11日(土)13:00~北広島町図書館で発表し、3月3日~31日北広島町図書館でポスター展示(テングシデの研究と生物多様性~テングシデ、オオサンショウウオ、八幡湿原~)予定です。ぜひおいでください。



乾燥エリアの観察